

別海町立西春別小学校 学校だより



からまつ No.21

平成31年3月22日発行 発行責任者 校長 金森 卓哉

次の新しい自分に 向かい

校長 金森 卓哉

学校の周りのアカエゾマツやオンコの木に、小鳥たちが戻ってきております。雪のない地面には小鳥たちが集まりついで姿が見られます。3月も半ばを過ぎ、季節が移り変わる時季を迎えているのに繰り返す雪。暦では4月がすぐ側まで近づいているのですが。

19日（火）に来賓の方々、保護者の皆様にご臨席賜り、本校の第87回卒業証書授与式を挙行いたしました。5名の卒業生がこの学び舎を巣立っていきました。

卒業式の中で卒業する5名の児童に2つのこととお話させて頂きました。1つ目は「自分で考え、判断して、行動できる人になってほしい」ということです「周りの人たちが、皆、こうしているから、同じくしていればいいんだ。」というのではなく、自分で得た情報を基に自分で考えて、「こうしよう」と、判断して行動できる人になってほしいということです。避難訓練の時のことを例にあげ、その大切さについてお話いたしました。避難訓練では、校内放送から、出火している場所、避難する場所、避難の仕方が放送されました。私たちは、それを情報としてしっかり聞き、そのことから「考えを進め」、どのように避難するか「判断」します。この「判断」のもとに避難という「行動」に移ります。学校の避難訓練では、避難の仕方に「先生の指示に従って避難してください。」という言葉がついていますから、みなさんは先生と一緒に避難していました。でも、その言葉がなくて、ただ「避難してください。」といわれたなら、放送からの情報をもとに自分で、考え、判断して、避難という行動をとらなくてはなりません。いつもいつも、大人がいるとは限りません。避難訓練は、逃げ方の訓練ということ以上に入ってきた情報からどのように避難するかを考え判断して避難という行動をとるかの訓練だと考えます。そして、このような自分で、考え判断し、行動することを繰り返す経験が、自分に対する自信や成長につながっていくと考えるのです。

2つ目は、「相手を大切にできる心」というお話をいたしました。私たちは、たくさんの人たちと一緒に生活しています。一緒に学校で学習したり、遊んだり、協力して行事を行ったりします。時に、友だちととても仲良くなったり、反対に、何かの原因で距離が離れてしまったことはないでしょうか。私は、友だちに対して、周りの人たちに対して、この「相手を大切にできる心」が大事だと思います。相手を大切に思う心は、伝わります。それは、言葉を通して、私たちの表情を通して、行動を通して伝わると考えます。特に、言葉は、私たちの心・気持ちを直接伝えるものです。相手のことを思い話す言葉は、相手の「心」に伝わります。相手に心のこもった言葉で伝えると、相手もその言葉を「心」で受けとめ、心のこもった言葉が返ってくるはずで、相手を大切にできる心は、相手を大切にできる言葉をうみ、相手の心に伝わり、相手も大切に思ってくれると考えます。相手を大切にできる人でありたいと考えるのです。という2つのお話をさせていただきました。

この卒業式では、先生方から指導を受けてきた呼びかけや合唱曲で、自分たちの「出せる力の 精一杯」を出して、卒業生は保護者の方への感謝、周りの方々への感謝を、在校生も卒業生への感謝と祝福の気持ちを表してくれました。

本日（22日）修了式を行い、1年生から5年生の児童も各学年を修了いたしました。保護者の皆様、地域の皆様、本校の1年間へのご理解とご協力を心より感謝申し上げます。次年度も、同様に本校へのご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

